

日本臨床教育学会 第9回研究大会のご案内（第2次）



第9回大会を迎える

日本臨床教育学会会長 田中 孝彦

日本臨床教育学会の9回大会は、この秋、札幌の北海道教育大学で開かれます。札幌では3度目の大会となりますが、現地で準備に取り組んでくださっている皆さんに、感謝申し上げます。なお、北海道では、昨年9月に大きな地震が発生しました。今回の大会では、現地からの報告・発言を受けとめて、震災が子ども・若者と人々の暮らしにもたらしている問題と医療・福祉・教育の課題などについて、論議を深めることが、一つの重要な柱となります。

ここ半年余りの間に、日本の社会では、千葉県野田市で少女が「虐待」を受けて「死亡」した事件、東京都練馬区で「ひきこもり」が続く息子の命を「高齢」の父親が奪ってしまった事件など、数々の深刻なできごとが起きました。そのなかで、「70・40問題」「80・50問題」といった言葉が、人々の間で一気に広がりました。私も、子ども・若者たちが直面している問題、夫婦・家族・親子関係など「壮年期」の人々の問題、老年期の人々の「生きづらさ」の問題、政治・行政の「貧困」と教育機関・福祉機関が抱える問題などが、重なりあう今日の日本社会の現実の深刻さを、改めて強く感じているところです。

日本臨床教育学会が、東日本大震災直後の2011年の3月18日に設立されて、8年余りの時間が経過しました。今、私の心のなかには、その設立の「呼びかけ」の締めくくりの部分の次のような文章が、浮かんできています。

「子ども理解・人間理解と人々の生存・発達の援助についての実践・研究の発展・深化の道は、その時代を生きる一人ひとりの子どもや人々の具体的な生活と声から出発する以外にありません。」「また、福祉・医療・心理臨床・文化・教育などの諸分野の発達援助専門職の人々の間に蓄積されている経験と知恵を、交流し、吟味し、共有する地道な努力を強める以外にありません。」「そして、子ども理解・人間理解と生存・発達の援助に関わる実践者と研究者の、対等な交流と共同の思索・研究の関係と機会を、具体的に創り出す以外にありません。」「さらに、重なりあう問題意識のもとに展開されている諸外国の人々の実践・研究との交流と、そこに芽生えている概念や方法の主体的な摂取を重ねる以外にありません。」「そのための持続的な交流と共同研究の場として、新しい性格を帯びた領域横断的な学会である日本臨床教育学会の設立を呼びかけます。」「（日本臨床教育学会設立趣意書）より」

全国各地で、多くの会員の方々が、こうした「設立」の呼びかけを改めて思い起こしながら、この「難局」を乗り越えていくような実践・研究を模索されていることと思います。第9回大会では、皆さんが、そうした試みを持ち寄って、報告と討論を深めていただくようお願いいたします。

日本臨床教育学会
第9回 研究大会開催要項

大会プログラム

1. 大会日程

＊理事会：10月18日（金）17：00～19：00

＊1日目：10月19日（土）

9:30	10:00		12:00	13:00		15:00	15:20		17:20
受付	自由研究発表（A） 一般研究		昼 食	シンポジウムⅠ 現地大会企画		休 憩	課題研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・ Ⅳ・Ⅴ・特別課題研究		

＊18：30～20：30 情報交換会 札幌サンプラザ

＊2日目：10月20日（土）

9:00	9:30	10:10	10:30		12:30	13:30		15:30
受付	総会	休 憩	シンポジウムⅡ 学会主催企画		昼 食	自由研究発表（B） 実践事例研究		

2. 大会会場：北海道教育大学札幌校（〒002-8501 札幌市北区あいの里5条3丁目1-3）

事務局・札幌校



〒002-8502 札幌市北区あいの里5条3丁目1番5号

問い合わせ先：学務部入試課 TEL011-778-0652

○JR

JR「学園都市線」の「あいの里教育大駅」から徒歩約20分（約1.4km）
札幌駅→あいの里教育大駅 約30分

○地下鉄ーバス

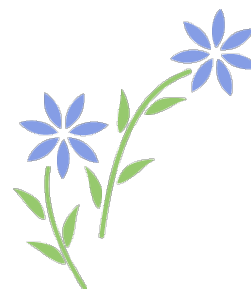
地下鉄南北線の「麻生駅」から中央バス「麻生④あいの里教育大線」で
約32分、「あいの里4条5丁目」又は「教育大学前」下車、徒歩2分

○地下鉄ーバス

地下鉄東豊線の「栄町駅」から中央バス「栄町③栄町・教育大線」で
約27分、「教育大学前」下車、徒歩2分

3. 大会実行委員会

実行委員長：庄井 良信（北海道教育大学大学院学校臨床心理専攻）
副実行委員長：池田 考司（北海道教育大学札幌校）
事務局 長：川俣 智路（北海道教育大学大学院高度教職実践専攻）
実行委員：阿部 俊樹（北海道教育大学札幌校非常勤講師）
荒木 奈美（札幌大学）
井上 大樹（札幌学院大学）
内田 雅志（旭川大学）
太田 一徹（北海道教育大学札幌校非常勤講師）
小笠原 はるの（札幌大学）
木戸口 正宏（北海道教育大学釧路校）
黒谷 和志（北海道教育大学旭川校）
今野 邦彦（藤女子大学）
庄井 真美（日本臨床教育学会事務局）
田中 弘美（公認心理師・学校心理士）
戸田 竜也（北海道教育大学釧路校）
苫米地 幸子（北海道教育庁学校教育局生徒指導学校安全課）
中西 さやか（名寄市立大学）
中根 照子（公立小学校教諭・北海道教育大学大学院非常勤講師）
畠山 貴代志（高等学校スクールカウンセラー・北海道教育大学大学院非常勤講師）
松田 康子（北海道大学大学院教育学研究院）
松見 浩平（高等支援学校教諭・北海道教育大学大学院非常勤講師）
間宮 正幸（学校法人共育の森学園）
宮崎 隆志（北海道大学大学院教育学研究院）
村越 含博（公立小学校教諭・北海道教育大学非常勤講師）
村澤 和多里（札幌学院大学）
守屋 淳（北海道大学大学院教育学研究院）



大会実行委員長挨拶

第9回研究大会実行委員長 庄井 良信

紅葉の美しい北海道で開催される本大会へのご参加を、実行委員会一同、心より歓迎いたします。臨床教育学は、教育、心理、福祉等の専門領域を超えて、人間発達援助の現場で生まれる臨床的な知を構想する学問です。本大会においても、現代社会において様々な「危機」を生きる人々の人生（ライフ）そのものに寄り添い、その理解と支援のための叡智を深め合いたいと思います。当事者の声を聴き合い、語り合い、祈るような想いで希望を紡ぎ合う大会にしたいと思います。お誘い合わせの上、ぜひ本大会にご参加ください。



インフォメーション

1. 大会受付

受付は、大会会場となる北海道教育大学札幌校で行います。

受付の開始時間は、以下の通りです。

- * 1日目：10月19日（土）9：30～ 受付：北海道教育大学札幌校
- * 2日目：10月20日（日）9：00～ 受付：北海道教育大学札幌校

2. 大会参加費と参加申し込み方法

大会参加費は、下記の金額を大会当日に＜受付＞でお支払いください。

- * 一般：5,000 円
- * 学生・院生：2,000 円

※ 上記の大会参加費は「発表要旨集録」代を含みます。

* 大会参加費は、当日の申し込み・支払いのみとなります。大会には、会員以外の方でも「当日会員」として上記の参加費でご参加いただけます。なお大会に不参加で「発表要旨集録」の入手を希望される方は、大会以降に、1部2,000円で頒布します。ご希望の方は日本臨床教育学会ウェブサイトからお申し込みください。

3. 弁当（昼食）と情報交換会費の＜事前申し込み＞

＜重要＞ 弁当と情報交換会については、準備の都合により事前申し込みを行います。

- * 情報交換会費：5,500 円（大学から会場への移動はバスの送迎があります。）
- * 弁当（昼食）費・お茶付き：1食につき 700 円（2日間の場合 1,400 円）
- * なお、10月19日の情報交換会参加者の皆さんが利用できるバスが、大学正門から会場（ホテル札幌サンプラザ）まで運行される予定です。バスを利用される方は、10月19日の終了後（17：20頃）に、会場の担当者をご案内いたしますので、指示に従ってご乗車ください。

弁当と情報交換会の事前申し込みにつきましては、下記の「口座記号」「口座番号」「加入者名」宛てに、同封の払込取扱票、又は郵便局備え付けの払込取扱票で事前にお支払いください。（以下のサンプルをご参照ください）。

＜払込取扱票のサンプル＞

口座記号：02760-5

口座番号：103423

加入者名：日本臨床教育学会第9回大会実行委員会

他金融機関からの振込用口座番号：当座 二七九店 0103423

払込取扱票		振替払込請求書兼受領証	
00	口座記号・番号はお間違えないよう記入してください。	口座記号番号	02760-5
02760-5	口座番号（右詰めで記入）	加入者名	103423
日本臨床教育学会 第9回大会実行委員会	金額	日本臨床教育学会	第9回 大会実行委員会
（ ）大会1日目：10月19日（土） 弁当（お茶つき）700円	料 金	おなまえ	
（ ）大会2日目：10月20日（日） 弁当（お茶つき）700円	備考	ご依頼人	様
（ ）10月19日（土） 情報交換会 参加費 5,500円		（消費税込）	日 附 印
※ お支払 は、10月11日（金） までに お願ひいたします。		料 金	円
（ご連絡先電話番号）		備考	
裏面の注意事項をお読みください。（ゆうちょ銀行）			
これより下部には何も記入しないでください。			

各票の※印欄は、ご依頼人様においてご記入ください。

記載事項を訂正した場合は、その箇所に訂正印を押してください。

この受領証は、大切に保管してください。

注意：上記＜払込取扱票＞による申し込みの締切は、**10月11日（金）**です。

- ① 弁当の販売は、事前注文のみとなりますので、あらかじめご了承ください。なお、大学周辺には、コンビニ、食堂などがいくつかありますが、土・日曜日は閉店のところもありますので、弁当を事前注文していただく方が無難だと思われます。弁当を事前にお申し込みいただいた方には、大会両日とも、受付の付近にてお渡しいたします。その際は、お名前をお申し出ください。
- ② 情報交換会は、10月19日（土）18:30～20:30に、ホテル札幌サンプラザにおいて行います。参加ご希望の方は、＜払込取扱票＞により、事前にお申し込みください。なお、事前の申込みをせずに、情報交換会へ当日参加を希望される場合は、**6,500円（税込）**の参加費をいただきますのでご了承ください。

4. ホテル宿泊について

お泊まりに関して、札幌市内の宿泊施設は混雑が予想されます。情報交換会を開催する「ホテル札幌サンプラザ」は9月の時点ですでに満室となっております。「ホテル札幌サンプラザ」から徒歩3分程度のところにある、「北海道第一ホテルサッポロ(札幌市北区北23条西4丁目2-6)」にはまだ予約状況に空きがあり、電話予約時に「北海道教育大学での臨床教育学会参加」と伝えていただければ、10月18日が7500円、10月19日が8500円(素泊まり)で宿泊できます。お早めのご予約をお願いいたします。

＊ 北海道第一ホテルサッポロ (電話番号) 011-726-3232

5. 発表・提案の準備に関するお願い

課題研究及びシンポジウムの提案者、並びに自由研究発表者のみなさまには、以下のことをお願いいたします。

＊ 発表要旨集録以外の当日配布資料がある場合には、大会当日、各自で以下の部数を印刷して、発表会場に直接ご持参ください。

- ◆ 課題研究（Ⅰ～Ⅳ及び特別）の提案者は、**50部**
- ◆ シンポジウムⅠ・Ⅱの提案者は、**100部**
- ◆ 自由研究（一般研究・実践事例研究）の提案者は、**50部**

なお、大会当日、会場におけるコピー機や印刷機等の使用はできません。不足分が生じた場合にも、事務局では対応しかねますので、あらかじめ各自で十分な部数をご準備ください。

＊ 利用できる機器は、PC用プロジェクターです。PCは原則として会場で準備しておりませんので、ご持参いただきますようお願い申し上げます。機器の調整は、各発表会場で各自の責任で行ってください。

＊ 発表又は提案では、日本臨床教育学会の＜倫理規程＞を遵守してください。とりわけ個人情報の保護を徹底してください。

＊ 発表当日の持ち込みの配布資料等で、提案後に回収を要する資料については、＜回収資料＞であることをあらかじめ明記しておいてください。また、事前に＜回収資料＞があることを司会者にお伝えいただき、当該部会終了後に、提案者の方で速やかに回収してください。

＊ 課題研究やシンポジウムにおける提案者 1 人の提案時間や提案順序につきましては、各部会によって異なりますので、各担当理事を中心に事前に確認し合っておいてください。また直前にも確認し合ってください。

＊ **自由研究 A (一般研究)**：個人研究の場合、発表時間は 20 分、質疑は 5 分です。また共同研究で発表者が複数いる場合、発表時間は 40 分、質疑は 10 分です。なお、数名の発表が終わった後、編成された部会ごとに、全体討論が 15 分程度予定されています。

＊ **自由研究 B (実践事例研究)**：個人研究の場合、発表時間は 40 分、質疑は 20 分です。なお、共同研究で発表者が複数いる場合でも、1 つの発表につき発表時間は 40 分、質疑は 20 分ですのでご注意ください。



プログラム1日目

10月19日(土)



9:30～ 大会受付

10:00～12:00 自由研究発表(A):一般研究

13:00～15:00 シンポジウムI:現地大会企画

15:20～17:20 課題研究I～V, 特別課題研究

18:30～20:30 情報交換会



自由研究発表（A）：一般研究発表
10月19日（土）10：00～12：00
204教室

一般研究・第1分科会

臨床教育学の検討

司 会：井上 大樹（札幌学院大学）
川俣 智路（北海道教育大学）

- ＊ アンリ・ワロンの発達教育思想を日本の臨床教育学にどう生かすか（6）
— 姿勢・運動の支点と間身体性に注目して

今野 邦彦（藤女子大学）
間宮 正幸（学校法人共育の森学園）
亀谷 和史（日本福祉大学）

- ＊ 縮小社会における臨床教育学の探求（1）
— ジャクソン，ジャネ，ワロンの発達教育思想をてがかりに

間宮 正幸（学校法人共育の森学園）

- ＊ 「生徒指導」の臨床教育学的考察
— 大学生の「生徒指導」のイメージから考える

川原 茂雄（札幌学院大学）

- ＊ 社会的養護関連施設の子どもの記録とラーニング・ストーリーの危険性

三好 伸子（武庫川女子大学大学院）



自由研究発表（A）：一般研究発表
10月19日（土）10：00～12：00
205教室

一般研究・第2分科会

教師像・発達援助職養成の考察

司 会：福井 雅英（滋賀県立大学）
渡邊 由之（東大阪大学）

- ＊ 人間発達援助職としての教師像の考察
— 勝田守一の教師・教職論に着目して

吉益 敏文（豊岡短期大学）

- ＊ 教育者を目指す学生のコミュニケーション観に関する研究
— 対人葛藤場面におけるかかわりに着目して

安田 英広（北海道教育大学大学院教育学研究科修士課程）

- ＊ 内発的なESDカリキュラムの形成に資する教員養成の試み
— 滋賀県立大学「総合的な学習の時間の指導法」の取り組みから

竹村 景生（奈良教育大学附属中学校）

- ＊ 地域に生きる子どもと教師のまなざし
— 震災後岩手・沿岸の教育実践から学ぶこと（その3）

土屋 直人（岩手大学）



自由研究発表（A）：一般研究発表
10月19日（土）10：00～12：00
206教室

一般研究・第3分科会

子どもたちの生活と支援

司 会：春日井 敏之（立命館大学）
南出 吉祥（岐阜大学）

＊ 子ども達の「放課後」研究

— 「Bクラブ」での過ごし方から見てきたもの

大西 真樹男（NPO 法人親子支援センター Bクラブ）

＊ 保育の集団一斉活動場面における発話の生成と変容

— 4歳児話し合い場面に着目して

宮本 雄太（東京大学大学院教育学研究科／日本学術振興会特別研究員(DC)）

＊ 罰則・処分のない学校での生活指導と子どもたちの成長

浦田 直樹（秋桜高等学校）

＊ 臨床的相談支援の「場」としての保健室の役割

— エピソード記録の共同省察を通して

加藤 純子（北海道教育大学大学院教育学研究科修士課程）



自由研究発表（A）：一般研究発表
10月19日（土）10：00～12：00
207教室

一般研究・第4分科会

ナラティブとケア

司 会：筒井 潤子（都留文科大学）
内田 雅志（旭川大学）

- ＊ 不登校と「母子の分離不安」ナラティブを再考する
— 「お母さんを守る」というオルタナティブ・ストーリー
廣瀬 雄一（大阪大学大学院人間科学研究科）
- ＊ 「共同体としての家族」を考える一視点
— ドイツにおける疾病および障害のある子どもの母親への聴き取り調査から
高口 僚太朗（岐阜大学）
土岐 邦彦（岐阜大学）
- ＊ 「精神障害を生き抜くとはいかなることか」を多様性にひらく
— 第2報 さくらさんへのインタビューから
松田 康子（北海道大学教育学研究院）
- ＊ 小学校における特別支援教育コーディネーターへの相談支援の可能性
白厩 郁子（北海道教育大学大学院教育学研究科修士課程）



自由研究発表（A）：一般研究発表
10月19日（土）10：00～12：00
208教室

一般研究・第5分科会

表現・コミュニケーション

司 会：村澤 和多里（札幌学院大学）
上田 真弓（琉球大学）

＊ コミュニケーション能力の向上に対する人間学的運動学習の可能性

青山 清英（日本大学文理学部）
土屋 弥生（日本大学文理学部）

＊ 身体表現における「新たな質的フィードバック」の可能性とその課題

東出 益代（武庫川女子大学）
村越 直子（武庫川女子大学）
橋本 有子（お茶の水女子大学）
関 典子（神戸大学）

＊ 身体知能力としての教師の生徒指導力

土屋 弥生（日本大学文理学部）



自由研究発表（A）：一般研究発表
10月19日（土）10：00～12：00
209教室

一般研究・第6分科会

発達援助のための視点

司 会：影浦 紀子（松山東雲女子大学）
土永 葉子（帝京平成大学）

＊ 発達障害のある人はどのように「障害」を経験しているのか

平野 郁子（北海道大学大学院教育学院）

＊ 特別支援教育支援員のナラティブ

— 支援員をとりまく多様な思いと支援員の葛藤

小田 郁予（東京大学大学院）

＊ 社会福祉系大学生が高齢者と「触れる」場を共有する必要性

荒木 実代（武庫川女子大学大学院臨床教育学研究科博士後期課程）

＊ 保育とは何か

— 子どもの発達援助と保護者と協働する保育の創造

長谷 範子（花園大学）



10月19日(土) 13:00~15:00 *304教室

＊ シンポジウムⅠ：現地大会企画

子どもの育ちに寄り添う保幼小接続の課題
－ 臨床教育学の問いとして －

司会者：宮崎 隆志（北海道大学）

影浦 紀子（松山東雲女子大学）

趣旨説明：庄井 良信（北海道教育大学）

報告者：井内 聖（学校法人リズム学園学園長・はやきた子ども園長）

太田 一徹（元札幌市立小学校／北海道教育大学非常勤講師）

富岡 美織（北の星東札幌保育園長）

綿谷 千春（北海道に自由な小学校を作る会）

コメンテーター：吉岡 眞知子（東大阪大学）

＜企画の趣旨＞

教育の語源の一つはエデュカーレ（educare）である。子どもの「ケアと教育」を考えるさいにも、子どもの「発達と教育」を考えるさいにも、子どもの「権利と教育」を考えるさいにも、保育と幼児教育は、人間発達とその支援・指導の「原石」が、あらゆる夾雑物を取り除いて、もっとも純粋で透明に見えてくる研究領域である。その意味で、保育と幼児教育は、臨床教育学にとって、最も重要な研究領域の一つである。

保育と幼児教育の分野では、2012年8月に「子ども・子育て関連3法」が成立し、2015年4月から「子ども・子育て支援新制度」が施行された。2019年10月には「子ども・子育て支援法」が改正され、幼児教育と保育が「無償化」された。これらの政策は、直近の指導要領等の改訂（2017年3月の保育所保育指針の改定、幼稚園教育要領及び幼保連携型認定こども園教育・保育要領の改訂）とも連動している。これらの制度改革に伴って地域の保育現場や教育現場では、さまざまな課題が浮き彫りになっている。また北海道では、その課題を乗り越えるために、注目すべき保育・教育実践も蓄積されてきている。

このシンポジウムでは、保幼小接続に関する近年の制度改革に伴って生まれる保育実践や教育実践の「問い」と課題について探究したい。北海道のそれぞれの地域を生きる子どものリアルな姿や生活現実に触れた各報告者の「語り」（子どもの理解と支援の物語）を傾聴しながら、保幼小接続の具体的な課題や未来への展望について考え合いたい。そのことを通して、学力向上志向の強いコンピテンシーベースの保幼小接続と、子どもの育ちに寄り添う（人間形成志向の強い）保幼小接続との関係性についても、臨床教育学が探究すべき課題として明らかにしたい。



10月19日(土) 15:20~17:20 *204教室

* 課題研究Ⅰ：現代の子どもと子ども理解

乳幼児期・家庭還元論を超えた臨床教育学的乳幼児研究の共同構築にむけて
— 第3回「子育ての孤立化」「乳幼児保育・教育の変容」の現状と背景に迫る —

司会者 : 吉岡真知子 (東大阪大学)
筒井 潤子 (都留文科大学)
話題提供 : 砂田 直美 (民間子育て支援団体会員)
川田 学 (北海道大学大学院教育学研究院)

<企画の趣旨>

本課題研究では、本学会における今日までの蓄積を踏まえつつ、乳幼児期を臨床教育学はどのようにとらえるのか、また児童期・思春期の子ども理解に当たって、乳幼児期をどのように位置づけるのかを改めて対象化することが必要だと考えている。

初年度(2017年度)は、乳幼児期にある子どもの育ちについて、子育て中の母親と子育て支援の当事者の声を踏まえて、乳幼児保育・教育と子育てをめぐる社会環境の厳しい現状を共有した。第2回目の昨年度は引き続き、子育て当事者(夫婦)の声に耳を傾け、現在の乳幼児の生活や子育てを巡る現実を見つめたうえで、乳幼児研究の視点から、現代社会の中で揺れ続ける子育ての意識と乳幼児の姿を捉え、同時に変わることのない乳幼児期の本質との関係で子どもの変化の意味を確認し合った。そして子どもの状態の変化を変わらぬ子どもの本質との関係で考察することの重要性は、幼児期だけでなく、臨床教育学における子ども理解に共通する課題でもあることを共有した。

今年度は、これらの蓄積を踏まえ、北海道を拠点に活動し研究しておられるお二人の報告を聴く予定である。まず初めに、地域づくりと子育て支援に取り組む子育て支援民間非営利団体で、子どもや親のそばで身近にその思いや変化を感じておられる砂田直美氏から、日々感じてこられた臨床的な課題や疑問とともに、その活動の持つ現代的意味について率直に語っていただく。そのうえで、本課題研究でも共有されてきた「子育ての孤立化」と「乳幼児保育・教育の変容」について、子育て家庭と保育現場の双方に関わりながら研究を続けてこられた川田学氏から、20数年にわたる研究から見てきた子どもの遊びをめぐる「貧困化」とその歴史的・構造的背景について報告していただき、加えて、その歴史的・構造的問題を克服しようとする取り組みも紹介して頂く。

それらの報告を踏まえて、地域と子育てと保育の関係性をめぐる現状の困難の意味を探りつつ、理論的、実践的な課題を見出していく議論につなげたい。



10月19日(土) 15:20~17:20 *205教室

* 課題研究Ⅱ：子ども・若者の育ちと自立を支える地域からの共同

多世代と関われる居場所づくりの可能性と学校 - 「生きづらい」者同士の相互承認と地域・学校の当事者へ

司会者： 富田 充保 (相模女子大学)

渡邊 由之 (東大阪大学)

報告者： 小林 真弓 (NPO 法人 ねっこぼっこのいえ代表)

大口 久克 (北海道檜山管内せたな町立大成中学校)

コメンテーター： 長野 喜美子 (北海道八雲高校養護教諭)

<企画の趣旨>

本課題研究では、今まで主に乳幼児期の子育てと親支援に関わる報告の筋と、もう一つ若者の居場所づくりや就労・自立支援に関わる報告の筋を、交互にあるいは組み合わせて検討してきた経緯がある。こうした地域の中での NPO 等の若者支援の取り組みや、あるいは地域の子育て世代を巻き込んだ大学での取り組みは検討されてきたが、基本的に対象が子育て世代か、あるいは若者世代に対象が特化されたものであったと言える。

そこで今回は、同じ地域の支援団体でも、特定の対象に限られるというより、むしろ意識的に「多世代が互いに関わり合える」場づくりを意識している団体の報告を、その特有の取り組みと意義に焦点を当てて考えあいたいと思う。また、本来多世代に関わりあっているはずの地域の潜在的な可能性を、今日的にどう掘り起こすことが必要なのか、地域の文化センターでもありうる学校での取り組みを通じて、地域と学校との接点をも解明したいと考えている。

多くの参加者が、自分の現場に即して考えられるような議論にしていきたい。



10月19日(土) 15:20~17:20 *206教室

* 課題研究Ⅲ：発達援助実践と発達援助専門職

発達援助専門職の今を捉えるために

司会者：田中 孝彦（日本臨床教育学会会長）

吉益 敏文（豊岡短期大学）

趣旨説明：田中 孝彦（日本臨床教育学会会長）

報告者：柴田 久美子（元特別支援学校寄宿舎指導員）

佐藤 真奈美（北の星東札幌保育園保育士）

吉田 圭子（札幌市中学校教諭）

<企画の趣旨>

本課題研究では、今まで、児童相談所、臨床道化師（第1回）、特別支援学校教師（第2回）、肢体不自由学校教師、災害後教育行政（第3回）、被災地カウンセラー、教師（第4回）、児童精神科カウンセラー、特別支援学校教師（第5回）という発達援助専門職の報告に基づく検討、「からだ」に着目した研究の報告（第6回）、「情緒・情動」に着目した研究の報告（第7回）、発達援助専門職の「身体」に着目した報告（第8回）が行われてきた。

発達援助実践と発達援助専門職に関する研究を行う時、どこに焦点を置き進めていくか自体が重要で難しい課題となる。

そこで今回は、担当理事の交代も受け、あらためて発達援助職の語りを聴き、共有し、考えるという初発の段階に一度戻ってみたいと考える。そこで、三人の発達援助職の方。長年、養護学校寄宿舎指導員として実践を行ってきた柴田さん、北海道の代表的な保育園で保育士をしている佐藤さん、中学校教師として実践してきた吉田さんからの実践史（専門職としての成長史）を話していただくことにした。



10月19日(土) 15:20~17:20 *207教室

* 課題研究Ⅳ：教師の専門性と教員養成・教員研修

学校・教師の問題／教育実践と教師
— 子ども理解を深め「指導観」を問い直す —

司会者：土屋 直人（岩手大学）
山内 清郎（立命館大学）
報告者：福井 雅英（滋賀県立大学）
内田 信也（弁護士・札幌弁護士会）
春日井 敏之（立命館大学）
指定討論者：川俣 智路（北海道教育大学）

<企画の趣旨>

茨城県高萩市、福井県池田町、神戸市、宝塚市、岐阜市などにおける中学生自死、札幌市の高校生自死など、学校でのいじめを含む出来事や教師の指導に関わって子どもが自死する事例が後を絶たない。重大事態発生に際しては、生徒間の問題について事実を明らかにしていくことに加えて、その前後における当事者への指導・支援、学級・学年指導、部活指導など、場面は異なっても教師の「指導」のあり方が問題となっている。

その「指導」のあり方に関して、報道などでは「不適切な指導」「行きすぎた指導」「指導の欠如」などと表現されることが多いが、問題の本質は、子どもの尊厳を傷つけるような対応にあり、子どもの人権侵害と指摘せざるを得ないような状況もある。このような状況の背景には何があるのか。さらにこの間、個々の教師における問題を含んだ対応に対して、教職員集団としてフォローできず、教育行政・教育委員会も不適切な対応を重ねる事例が社会的にも大きな問題となってきた。こうした状況を問い直し、学校内におけるチームが機能していくことが、学校外との多職種連携、協働性を促進することにもつながっていくのではないかと。

教師の指導は子どもの内面の真実と応答があってこそ成立するのであり、それには何よりも、子どもの発達の・教育的ニーズ、願いを深くつかむ子ども理解が求められている。今次の課題研究では、学校現場における事例の検討を通して、子ども理解と教師の指導観を問い直すことによって、教育的な指導・支援のあり方について検討を行う。合わせて、教育的な指導・支援のあり方について学校現場や家庭、地域などにおける社会的な議論と認知を拡げる道を探りたい。

10月19日(土) 15:20~17:20 *208教室

* 課題研究V：臨床教育学の概念と方法

語り（ナラティブ）と対話から探究の問いを紡ぐ
— 臨床教育学の方法意識 —

- 司 会 者 : 田中 昌弥 (都留文科大学)
庄井 良信 (北海道教育大学)
- コメンテーター : 田淵 久美子 (活水女子大学)
内田 雅志 (旭川大学)
中西 さやか (名寄市立大学)
- パネリスト : 井内 聖 (学校法人リズム学園学園長・はやきた子ども園長)
太田 一徹 (元札幌市立小学校／北海道教育大学非常勤講師)
富岡 美織 (北の星東札幌保育園園長)
綿谷 千春 (北海道に自由な小学校を作る会)

<企画の趣旨>

シンポジウムⅠでは、人間発達の「原点」である保育と幼児教育の大切さを改めて確認し、幼児期の教育と児童期の教育との接続について、子どもの育ち（発達）の物語に寄り添って再考した。それは、保幼小接続というテーマを、制度論的な接続だけでなく、発達論的な接続としても問い直すという試みであった。そして「いま・ここ」を — そして未来に向けて —懸命に生きている生活者・学習者としての子どもの育ち（発達）という視点から、保幼小接続の課題と可能性の探究でもあった。

この課題研究では、先だって行われたシンポジウムⅠの報告を受けて、田淵久美子氏(活水女子大学)、内田雅志氏(旭川大学)、中西さやか氏(名寄市立大学)から、各報告者、あるいは報告全体へのコメントと問いを提示していただく。その後、それらの問いに対して、シンポジウムⅠで報告いただいた各パネリストから応答していただく。その後に、参加者からの問いを受けながら、課題研究そのものを「保幼小接続の課題と未来の展望」について、語り合いながら対話を通して探究するナラティブ・カンファレンスになるようにしたい。

子ども理解や自己形成(Bildung)を大切にする保育・幼児教育の実践者の当事者語りをリフレクティブに傾聴し、実践者と研究者がピアな立場で対話しながら、保幼小接続の課題と未来展望について問うべき問いの糸口を探究したい。この一連のセッションを通して、臨床教育学におけるナラティブな探究(narrative inquiry)とナラティブな学び(narrative learning)さらにはオープンダイアログ(open dialog)という方法意識の可能性も探りたい。

10月19日(土) 15:20~17:20 *209教室

* 特別課題研究：災害と臨床教育学

北海道・胆振東部地震を通して考える臨床教育学の課題

司会者：石井 邦也（聖和保育園）

上田 孝俊（武庫川女子大学）

提案者：斎藤 鉄也（全北海道教職員組合書記長）

加藤 純子（むかわ町立穂別中学校養護教諭・北海道教育大学院生）

<企画の趣旨>

7月29日から31日にかけて、今次研究大会の本分科会で胆振東部地震に関する報告をお願いした2名の方と出会い、この地震に関する課題を聴いた。そして、胆振東部地震が明らかにしたものは、地震がもたらした直接被害よりも、1)火山灰や軽石などのテフラ（火山碎屑物）層が形成した不安定な地層が土砂崩れを起こしたこと（これには地震前日までの台風21号による豪雨も影響していると言われている）、2)河川跡の不安定な地層の上に宅地造成がおこなわれ、液状化現象を起こしたこと（札幌市清田区里塚だけでなく、むかわ町穂別での家屋損壊にもその影響が見られる）、3)苫東厚真火力発電所に電源を集中したために起こった北海道全土での停電（ブラックアウト）、4)停電・水道送水停止に伴う札幌高層アパートでのエレベーター停止（札幌市域で高齢者がタワーマンションに居住する傾向が強まっている）、5)外国人観光客が増加し、災害や避難情報が確実に伝わらない（避難先の小学校の情報が拡散し、そこだけに外国人避難者が集中した）など、一次災害、二次災害、さらには人工的原因による災害、現代社会の構造の問題が輻輳することであった。極めて災害が「社会問題化」していると言える。

校舎が使用不能となった安平町立早来中学校は高台の上にある。ガラスが数枚割れた程度であるが、構造上使用不能となった。この高台もテフラ層の上に建築されたものだろうか。3学期より早来小学校の道路向かいの仮設校舎が使用されているが、安平町は、早来中と早来小を一体化し、小中9年間の義務教育を一貫して実施する「義務教育学校」として新たな校舎を建てる方針であるという。

本分科会では、日本臨床教育学会震災調査チームとしての8年間の研究蓄積を最初に報告し、続いて胆振東部地震に関わる教育的課題を中心に、次の二つの報告を受け、参会者からの教育実態や取り組みの声を聴き、問題とそれに呼応する教育や援助を考えたいと思う。

プログラム2日目

10月20日(日)



9:00～ 大会受付

9:30～10:10 総 会

10:30～12:30 シンポジウムⅡ：学会主催企画

13:30～15:30 自由研究発表(B) 実践事例研究



10月20日(日) 10:30~12:30 *304教室

* シンポジウムⅡ：学会主催企画

児童虐待を臨床教育学の立場から考える

コーディネーター：田中 孝彦（日本臨床教育学会会長）

池田 考司（北海道教育大学）

趣旨説明：池田 考司（北海道教育大学）

報告者：小林 直毅（弁護士）

伊藤 克実（札幌学院大学）

紺野 陽佐（札幌市小学校教諭）

田中 由美子（「家庭・子育て・自立」学習会代表）

<企画の趣旨>

千葉県野田市における児童虐待死事件判決は、母親のDV被害と同時に児童保護の在り方について問う内容であった。ここ札幌でも今年、2歳の少女が母親の虐待によって死亡し、関係機関の対応の是非や、母親の孤立等が報道され、大きな問題になった。

児童虐待相談対応件数は、平成2（1990）年に1101件であったものが、平成11（1999）年に11631件と1万件を超え、平成23（2011）年に5万9919件になって以降、急増を続け、平成29（2017）年には13万3778件に達している。

少子化が進み、子どもの数は減る一方なのに虐待件数は急増しているという事態は、子どもの成長発達と発達援助が危機的な状況になっていることを示していると言えるであろう。

発達援助を重要な研究テーマとしている本学会において、この児童虐待を正面から扱うことが必要なことは会員の誰もが認識していることだと思う。

そこで今回は、これから児童虐待について本学会として継続的に研究を行っていくための第一歩として、児童虐待との接点のある発達援助職の方々から報告してもらい、実態の把握と、要因・課題の初発の探究を行っていきたいと考える。

児童虐待は、児童虐待防止法では、身体的虐待、性的虐待、ネグレクト、心理的虐待の4種類に分類されている。虐待死は、幼児に対する身体的虐待・ネグレクトによって起こっており、緊急の対応が求められている。そして今、新たに「教育虐待」（武田信子）という言葉が登場し、問題となっている。一見問題がないと思われる、豊かな家庭における成績等を理由とした虐待は、思春期の子どもたちを深く傷つけている。

なぜ親は子どもたちを虐待するのか？子どもを守り、親を支えるために発達援助職は何をすべきなのか？話し合い、これからの本格的な研究の第一歩にしたい。



自由研究発表（B）：実践事例研究発表
10月20日 13:30～15:30
204教室

実践事例研究・第1分科会

授業の臨床教育学的検討

司 会：田中 昌弥（都留文科大学）
本田 伊克（宮城教育大学）

＊ 臨床的授業構造に関する現象学的考察

一 高等学校国語科授業の文学作品読解時に表れた現象をどのようにとらえるか

佐藤 聖子（千葉黎明高等学校）

＊ 表現主体としての自己形成に関する研究

一 高等学校芸術科書道「漢字仮名交じりの書」の授業省察をととして

土井 伸也（北海高等学校芸術科書道教諭）



自由研究発表（B）：実践事例研究発表
10月20日 13：30～15：30
205教室

実践事例研究・第2分科会

教育現場における心理的アプローチ

司 会：横湯 園子（中央大学名誉教授）
松田 康子（北海道大学）

＊ 教育現場における逆転移の明確化とその利用

高品 孝之（北海道札幌北高等学校・小田原短期大学）

＊ 高校生徒への精神的・経済的自立を促す多職種連携の在り方について

村澤 博美（道立高等学校スクールカウンセラー）



自由研究発表（B）：実践事例研究発表
10月20日 13:30～15:30
206教室

実践事例研究・第3分科会

臨床教育学とリフレクション，ナラティブ

司 会：山内 清郎（立命館大学）
長谷 範子（花園大学）

＊ 続・臨床教育学におけるリフレクションとは何か

— 第三の場を創造し協働的に他者と関わり「聴き合う」ことの意味を掘り下げる

荒木 奈美（札幌大学）

小笠原 はるの（札幌大学）

今田 章子（北海道大学教育学院）

野原 竜太（札幌市立中学校）

笹木 陽一（札幌市立中学校）

＊ 教師と学生の学び合いがもたらすストーリーの書き換えと問題の気づき

— 「臨床教育学入門」7年間をめぐるナラティブ的探究報告

荒木 奈美（札幌大学）



自由研究発表（B）：実践事例研究発表
10月20日 13：30～15：30
207教室

実践事例研究・第4分科会

子どもの生活・発達への支援

司 会：富田 充保（相模女子大学）
木戸口 正宏（北海道教育大学）

＊ 自己否定的な感情を取り除く授業（講義）の必要性

— 否定的な感情を生み出す要因とそれを受け止め取り除く講義の取り組み

阿部 俊樹（北海道教育大学札幌校非常勤講師）

＊ 教職課程学生による学習コミュニティと自己形成

— 学びの場における「ききあい」の追求の意義

井上 大樹（札幌学院大学）



自由研究発表（B）：実践事例研究発表
10月20日 13：30～15：30
208教室

実践事例研究・第5分科会

子ども理解と教師

司 会：庄井 良信（北海道教育大学）
伊田 勝憲（立命館大学）

- ＊ 困難を抱える子どもとの関わりから、自己の教師像と子ども理解を問い直す
— 子どもと互いに声を聴き合うことで深まる子ども理解

杓形 みどり（札幌市公立小学校）

- ＊ 生活格差の中にいる子どもと向き合い、やったこと、見えたこと

紺野 陽佐（札幌市内小学校）



自由研究発表（B）：実践事例研究発表
10月20日 13:30～15:30
209教室

実践事例研究・第6分科会

出合いと信頼の形成

司 会：福井 雅英（滋賀県立大学）
川原 茂雄（札幌学院大学）

- ＊ 信頼できる大人の発見を力にして育まれてきた自律性
ー 北星余市の実践から考える

吉田 裕一（北星余市高校）

- ＊ 子どもたちとの、世界と他者、自己に出会いなおす「ことば」の経験
ー こどものてつがく、生活綴方、ナラティブのあいだで

北浦 貴之（山梨県小学校教諭）



自由研究発表（B）：実践事例研究発表
10月20日 13：30～15：30
211教室

実践事例研究・第7分科会

コミュニケーションの指導

司 会：黒谷 和志（北海道教育大学）
守屋 淳（北海道大学）

- ＊ 発達援助者として子どもの声なき声を受けとめる
 - 一 小学校での取り組みから

中根 照子（釧路市立中央小学校）

【第9回大会に関する問い合わせ】

〒002-8502 北海道札幌市北区あいの里5条3丁目

北海道教育大学札幌校

第9回大会実行委員長 庄井 良信

E-mail : crohde2011@yahoo.co.jp

